

IV-22 高速道路（改築）に伴う大規模休憩施設の基本的な考え方について

日本道路公団	今村	修
日本道路公団 正会員	長尾	哲
(株)協和コンサルタンツ	森山	靖紘
(株)協和コンサルタンツ	軽部	和信
○(株)協和コンサルタンツ 正会員	森田	義也

§ 1. はじめに

東名高速道路改築に伴い、足柄サービスエリア（以下足柄SA）では、現在容量オーバーとなっている休憩施設（現在小型車換算200台）を拡張し、小型車換算で600台、将来1000台の駐車場計画が立てられている。

この規模はこれまでにないものであるため、ヒューマンスケールに対応した対策を図ると共に、駐車場、施設、園地の配置に留意し、真に利用者ニーズに応じたサービスが供給できるよう計画する必要がある。また、本SAでは、その立地条件や計画規模を考え合わせると、今日の車社会におけるSAの位置づけ（あり方）についても十分な検討が必要であろう。

§ 2. 休憩施設のあり方

従来の休憩施設は、高速道路上で安全快適に旅行できるように、利用者及び車に対して、疲労の回復、生理的要求の充足、自動車の機械的機能の保持等を果たすためのものであった。現在でも、SAの主たる目的は変わっていないが、社会情勢の変化に伴い、SAの利用目的、要求も高度化・多様化してきており、ただ単に休憩するための場としてではなく、アメニティの場、コミュニティの場、情報基地となるような環境施設が求められていると考えられる。

§ 3. 足柄SA（改築）計画の基本的な考え方

本計画では、まず、足柄SAの現況を整理し、利用実態を把握した上で問題点の抽出を行い、あるべき方向に照らし合わせて検討し、園地、施設、駐車場の複合的計画を進めた。

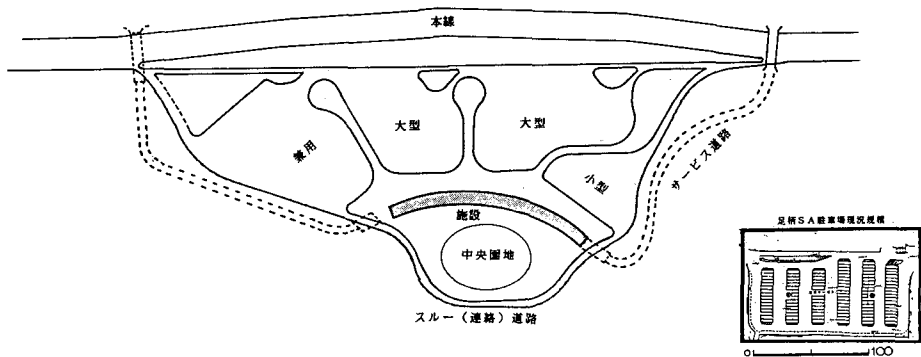


図-1 配置図

3-1. 園地

園地は、アメニティ、コミュニティの場となるよう敷地のほぼ中央に広くまとめて配置し、ここには自由で多目的なイベント広場やリクリエーション広場等を設け、そこには地域を象徴するモニュメントや彫

刻等を設置する。

3-2. 施 設

施設は、園地を取り囲むように配置し、園地と一体となりアメニティ、コミュニティを演出する。施設内容も利用者ニーズ（各駐車ブロック毎）に合わせた多目的施設とする。さらに扇型に配置された各駐車ブロックに対応できるよう凸型（敷地の形状や管理のし易さ、利用のし易さ等を考慮）とした。出入口は、駐車場からも園地からもアプローチできる。

3-3. 駐車場

駐車場は、ヒューマンスケールに対応した規模とし、車種別に4つのブロック（小型、大型2、兼用）に分割する。配置は車の動線を考慮して入口から小型、大型、大型、兼用とし扇型に並べる。扇型に並べることにより、中心までの歩行距離が均等になる。さらに、駐車場内の混雑を解消し、安全に誘導するため駐車場誘導システムを導入する。

3-4. その他

利用者ニーズに応え、SA全体の演出効果を高めるため、駐車場誘導システムを導入し、情報ターミナルやサービス道路、スルー（連絡）道路等を設けた。

（1）駐車場の誘導システム

駐車場の誘導システムは、I T Vカメラと画像処理で車の駐車状況を検出し、図形表示版で誘導を行うシステムとした。

（2）情報ターミナル

高度情報化社会に応じて、道路交通情報、物流に係わる情報及び観光案内等の情報を提供する情報ターミナルのシステムイメージを行った。

（3）サービス道路

上下線の連絡路（維持管理、緊急車両）及び施設内業務車両の一般道への接続道路としてサービス道路を計画した。この道路は、施設と園地を分断しないように施設のB1階に接続させる。

（4）スルー（連絡）道路

小型車駐車ブロックから兼用駐車ブロック及び本線の流入口へのアプローチ道路としてスルー道路を計画し、この道路が、園地周辺の景観を妨げないよう十分に配慮する。

（5）施 工

施工に関しては、現況施設を供用しながら 60万m³の土量処理及び施工順序を考え、計画を立てた。

§ 4. まとめ

今後、社会環境は加速度的に変化し、車社会におけるSAの位置づけも急速に変化して行くだろう。SAは従来の単一的目的の休憩施設ではなく、アメニティ、コミュニティ、情報等の場として利用されようとしている。

これからのSA計画の基本的な考え方として、ハードの園地、施設、駐車場を融合させ、互いの施設がシナジー（相乗）効果を発揮するようなソフト面の演出も含めて考察することが最も重要であると考え。

参考文献：

- 1)都市計画協会：大都市周辺の高速道路における休憩施設のあり方，昭和59年10月。
- 2)高速道路調査会：高速道路における休憩施設の計画設計に関する研究（その2），昭和54年2月。
- 3)日本道路公団：東名・名神・中央高速道路休憩施設一斉実態調査（報告書），昭和61年3月。
- 4)日本道路公団：東名・名神高速道路休憩施設改良計画（報告書），昭和58年3月。
- 5)日本道路公団：東名高速道路（改築）足柄SA休憩施設総合計画検討（報告書），昭和63年3月。